

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI新松戸教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・学校体育つながる運動の経験が積めること	・跳び箱や鉄棒、マット、縄跳びなど学校体育種目をの練習を行っている。「出来た」を実感出来るよう、運動内容を細分化しながら、バリエーション豊かに提供している。また、常に保護者様の要望の調査を行い、運動メニューに取り入れている。	・職員のスキルアップのための研修に力を入れている。一人一人自己研鑽に励みながらも、職員同士で教え合っている。子供達に伝わりやすい、イメージしやすい伝え方、教え方への意見交換を行っている。
2	・安全性に留意した環境設定	・安全に楽しく運動に取り組むために、事前にルールを可視化しながら伝えていく。ルールを守りながらも楽しく活動に参加出来るような環境設定を心がけている。	・日々の設備の点検や道具の点検を行っている。安全を第一に考えながら、迅速に対応している。
3	・豊富なイベント	・季節に合ったイベントや、微細運動に繋がるような支援内容を含んだイベント、運動に特化したイベント、親子イベントなどバラエティに富んだイベントを行っている。	・子どもたちや保護者のニーズを聞きながらイベントに繋げている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の方に送迎をして頂いている中、駅から距離があり徒歩だと大変との声があがっている。また、バスの停留所からも距離があったり、指定の駐車場がないため送迎が難しいとのことがあった。	・駅から距離があることや立地的問題が大きい。	・最寄りのパーキングへの案内をしている。
2	・振替利用率が低い。	・毎日どこかの事業所、習い事に通っている児童が多く、振替日を設定することが難しい。	・他事業所や習い事の曜日変更があった場合に、すぐ教えて頂けるような関係性を保護者様と築いている。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	TAKUMI新松戸教室
------	-------------

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 23

回収数 : 9

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8			1	・人数は適切ではあると感じているが、子供の混乱を防ぐためにも長期的に固定の職員に指導してほしい。	・職員の定着を図るとともに、変わらないサービス内容の徹底を行って参ります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	1				
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1		1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9					
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	4	1			
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1	1	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7		1	1			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6			3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	9					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI新松戸教室				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		法令を順守し、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。また、運動内容によっては子どもの安全を第一に考えスペースを分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	加配加算を採用しているため、常時指導員は2名以上の体制となっており、安全に配慮をした人員を配置している。法律上の配置数を満たしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		完全なバリアフリー化はされておらず、室内のトイレ前には段差があるが、こうした箇所では人的サポートを行っている。また、トイレは大人用が1室のため、補助便座の常備や、必要場合は、保護者と相談の上、職員が介助に入っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	毎日清掃を行っている。その際、設備の不備や破損箇所がないかなど、安全に留意しながら確認している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		運動スペースとは別に面談室があり、必要に応じて個別で使用できる環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、共有事項の確認をしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向けアンケートを12月に実施し、改善点や課題があった場合は、職員間でミーティングをし、改善へと繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日ミーティングを行い、各職員が意見を出し合うことで業務改善につなげている。また、全職員が意見を出しやすい環境作りを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		現在第三者による外部評価は行ってないが、必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修の他、外部研修にも参加している。また、研修受講者はレポートを作成することで、学んだ内容を現場間で共有出来るようにしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		保護者に対して、フィードバック時に当日行った支援プログラムを伝えている。また、掲示物や公式LINEで今後の支援プログラムの予定などもお知らせしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		面談やフィードバック時に聞き取り等を行うことで、個々のニーズや課題を客観的に分析した上で作成が出来るよう取り組んでいる。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員間での日々のミーティングを通して、運動中の様子や課題を共有しながら、支援計画の見直しと新たな目標を検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		支援計画に沿った支援プログラムの提供をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準化されたアセスメントツールを使用し、職員間で情報を共有しながら、適応行動の状況把握に繋げている。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		日々の子どもの様子を共有しながら、支援内容を検討している。児童一人ひとりの状況に応じた基本活動（自立支援・日常生活の充実のための活動等）に取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。 運動プログラムだけでなく、創作活動などのイベントの立案も行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		時期や季節に合わせた運動内容や、保護者や子どもの希望に合わせた活動プログラムの提供をしている。好評だったイベントは繰り返し行う事もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、幼稚園や保育園、家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題の共通認識を深めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援内容の共通認識をもつために、毎日支援開始前にミーティングを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		毎日支援終了後にミーティングを行い、一日の振り返りや共有事項の確認をしている。記録を必ず残し、出勤日ではない職員へも情報教習をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		サービス提供記録を行い、全職員がいつでも振り返りを出来るようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		6か月以内にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議があれば、子どもの様子を理解している者が参加している。また、会議内容の記録を残して他の職員への情報共有を行っている。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	関係機関との連携した支援へと繋がるような体制は整えている。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3		保護者からの希望によって対応していく。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3		現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、今後、必要に応じて対応していく。
28		(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2		必要に応じて対応していく。
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		地域の中での交流の機会はないが、必要に応じて検討していく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			支援終了後に、様子をお伝えしている。こちらから一方的な活動内容をお伝えするだけでなく、家庭での様子もお聞きしたりと課題に対する共通認識へと繋げている。	

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	面談や相談支援などでを行っている。日々のフィードバックの中でも情報提供をすることもある。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な場面で詳しく説明するようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		保護者との面談を行い、保護者や子どものニーズを確認し、共通理解しながら、支援計画の作成を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		保護者に個別支援計画を提示した上で、説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		6カ月以内に行う個別支援計画の面談の中で、保護者からお話を聞いた際に助言をすることもある。また、日々のフィードバック時に助言や支援を行うこともある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3		必要に応じて対応していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談があった場合には、日程調整をしてから迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		SNSやポスターを活用して活動内容の発信をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の扱いについては注意を払いながら取り扱っている。鍵付きの書庫に保管したり、名前の記載されているものはシュレッダーするなどしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		場面や状況等に応じて言葉だけでなく、絵カードで視覚的にわかりやすいようにしたり、ジェスチャー等も活用しながら特性に合わせた対応を心がけている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		現在行っていないが、今後必要に応じ検討していく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		左記マニュアル類はできており、保護者の目が届く位置(靴箱の上等)に置いて保護者へ周知している。また、定期的な訓練の実施も行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、児童を交えて実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約面談時に確認し、全職員への共有も行っている。また、保護者に確認の上、対応について情報提供をして頂き、事業所としての対応を確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定した訓練を実施している。実施する際は必ず児童を交えて行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		契約時に緊急連絡先を聞き、緊急時には連絡が繋がるように周知を徹底している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に事業所内で虐待防止の研修を行っている。		

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	身体拘束防止委員会を設け、身体拘束の定義や対応を職員間で確認している。保護者に説明し、個別支援計画においても記載している。	
--	----	--	---	---	--

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI新松戸教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもや保護者の求めるニーズを聞き、運動内容を提供する	・フィードバックの際に、子どもの様子や学校で行っている授業の内容を聞き、親密にコミュニケーションを取っている。	・日々丁寧な保護者対応を心掛けていく。
2	・異年齢との関わりや他の学校の児童との関わりが持てる	・小集団の中で、チームで相談したり協力する機会を提供していく中で、異年齢同士の関わり場を作っている。	・順番決めやチーム内での話し合いなどは、児童が自発的にできるよう促していく。
3	・子どもが来たいと思える教室づくり	・イベントや運動内容などバリエーション豊かに提供している。 ・運動内容の中で「出来た」の経験をたくさん積んでもらえるようにすることで「来たい」に繋げている。	・多様なイベントや運動内容の実施 ・やってみようと思えるような雰囲気作りに努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用者が多くなってきているので、運動スペースの確保を工夫している	・背の高い中学年以上の利用者が多いため、教室が手狭である。	・クラスに学年の偏りがないようにしていく。
2	・振替利用率が低い	・毎日どこかの事業所、習い事に通っている児童が多く、振替日を設定することが難しい。	・他事業所や習い事の曜日変更があった場合に、すぐ教えて頂けるような関係性を保護者様と築いている。
3	・駅から距離があり、送迎が大変である。	・専用の駐車場がなく、駅からも徒歩だと距離がある。	・専用の駐車場はないが、近場のコインパーキングを案内している。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI新松戸教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 48

回収数 : 22

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	2			・通常の活動には十分なスペースだと思うため。 ・大縄が天井に当たったり、走る活動をするのに少しせまい様に感じます。	・運動内容や活動人数などを工夫しながら、運動量の確保が出来るようにしていきます。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3	1	1	・先生のご異動が多い。人数の確保が難しいと思いますが、先生方のご待遇を見直してあげて欲しい。 ・不足していると感じたことはありません。 ・TAKUMIの新しい事業所ができるたびに先生が異動してしまうことが多かったと思います。現場の先生方もとても大変そうでしたので、現状をもう少し考えていただきたいです。	・温かいお言葉ありがとうございます。安定した療育の提供を目指し、人員配置を心がけていきます。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22					・わかりやすく目印をつけたり、1日の流れを視覚的にも分かりやすく設定されていると思います。	・引き続き視覚的に分かりやすい環境づくりに努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22					・整理整頓された余計なものが無いシンプルで過ごしやすい場だと思います。	・引き続き子どもたちの安全を第一に環境設定に努めています。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1			・個々の課題、特性に合わせたプログラムを随時して下さっています。	・引き続き特性に応じた質の高い支援を提供していきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22					・子どもの学校や家庭、他デイの様子を含めて課題を把握し必要な支援計画を作成いただいています。 ・いつも丁寧に話を聴いて下さり親身になって考えて下さっています。	・ありがとうございます。引き続き保護者様とお話できる機会を大切にしながら、一緒にお子様のことを考えていきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21				1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					・きちんと実施されていると思います。	・今後ともお子様一人一人に合った丁寧な支援を提供していきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22					・月毎に様々な活動が設定され、子ども達も楽しみにしています。	・季節に合ったイベントや創作、親子イベントなどバリエーション豊かな活動を進めています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	1	9	7		・いいえにつけましたが、参加日以外の活動で実施されていたら申し訳ありません。	・交流はないのですが、ご希望などありましたらお知らせ下さい。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22				・個人の特性を含め、活動に関する事や支援方法などきちんと説明いただいています。	・契約面談時に説明させて頂いております。ご質問やご不明点がありましたらいつでもご相談下さい。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22				・十分に説明いただいています。	・契約面談時に説明させて頂いております。ご質問やご不明点がありましたらいつでもご相談下さい。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	1	2	2			
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22					・活動後お迎えの際にいつも丁寧にフィードバックいただいています。 ・毎回細かいフィードバックをして下さり安心しております。	・その日のお子様の様子や支援内容など引き続き丁寧に伝えてまいります。是非ご家庭での様子もお聞かせ下さい。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1		<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと面談の日程を設定いただきお話しさせていただいています。 ・いつも優しく相談にのって頂いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画面談では日程調整へのご協力頂きありがとうございます。定期の面談以外でも、何かありましたら、いつでもご相談下さい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22			<ul style="list-style-type: none"> ・本人の困った様子や課題、母のイライラなど色々と話させていただいています。 ・いつも受容と共感いただきありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、共感的な支援を心がけながらお子様、保護者様と関わっていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	6	5	<ul style="list-style-type: none"> ・月のイベントなどで家族や兄弟が参加している様子があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用されている保護者様や、お子様のご兄弟も参加出来るようなイベントを引き続き考えていきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	3	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21		1	<ul style="list-style-type: none"> ・不安を感じたことはありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関しては、引き続き十分に注意しながら取り扱っていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17		5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・該当の事象が起きたことがない。 ・小さな怪我（転んだ、ぶつけた）でもきちんと状況等を説明いただいているので。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を最優先に考えながら運動に取り組んでいきます。今後とも状況を丁寧に伝えていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校とはちがう第3の居場所になっていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しいお言葉ありがとうございます。今後ともお子様が安心して、楽しく通える居場所作りに努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	2		<ul style="list-style-type: none"> ・毎週とても楽しみにしています。 ・とても楽しみにしており、活動の時の話も家庭でよくしてくれます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい限りです。お子様が「行きたい」と楽しく通ってくれるような活動プログラムを提供しながら、安心して通うことのできる場所になっています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1		<ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうございます！ ・いつも親身に対応して下さり感謝しています。ありがとうございます。 ・今後も通えたらと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。お子様の成長を間近で見られる、携われることを誇りに、今後とも関わっていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI新松戸教室			公表日		2026年 2月 28日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		1	3	法令を順守し、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。また、運動内容によっては子どもの安全を第一に考えスペースを分けている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		1	3	加配加算を採用しているため、常時指導員は3名以上の体制となっており、安全に配慮した人員を配置している。法律上の配置数を満たしている。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4		完全なバリアフリー化ははされておらず、室内のトイレ前には段差があるが、こうした箇所では人的サポートを行っている。また、トイレは大人用が1室のため、補助便座の常備や、必要場合は、保護者と相談の上、職員が介助に入っている。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		4		毎日清掃を行っている。その際、設備の不備や破損箇所がないかなど、安全に留意しながら確認している。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		4		運動スペースとは別に面談室があり、必要に応じて個別で使用できる環境になっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		4		毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、共有事項の確認をしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		保護者向けアンケートを12月に実施し、改善点や課題があった場合は、職員間でミーティングをし、改善へと繋げている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		毎日ミーティングを行い、各職員が意見を出し合うことで業務改善につなげている。また、全職員が意見を出しやすい環境作りを行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			4		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		4		内部研修の他、外部研修にも参加している。また、研修受講者はレポートを作成することで、学んだ内容を現場間で共有出来るようにしている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		保護者に対して、フィードバック時に当日行った支援プログラムを伝えている。また、掲示物や公式LINEで今後の支援プログラムの予定などお知らせしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		4		面談やフィードバック時に聞き取り等を行うことで、個々のニーズや課題を客観的に分析した上で作成出来るよう取り組んでいる。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		4		職員間での日々のミーティングを通して、運動中の様子や課題を共有しながら、支援計画の見直しと新たな目標を検討している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		4		支援計画に沿った支援プログラムの提供をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		4		標準化されたアセスメントツールを使用し、職員間で情報を共有しながら、適応行動の状況把握に繋げている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		日々の子どもの様子を共有しながら、支援内容を検討している。一人ひとりの状況に応じた基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)に取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。 運動プログラムだけでなく、創作活動などのイベントの立案も行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		時期や季節に合わせた運動内容や、保護者や子どもの希望に合わせた活動プログラムの提供をしている。好評だったイベントは繰り返し行う事もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題の共通認識を深めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援内容の共通認識をもつために、毎日支援開始前にミーティングを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		毎日支援終了後にミーティングを行い、一日の振り返りや共有事項の確認をしている。記録を必ず残し、出勤日ではない職員へも情報教習をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		サービス提供記録を行い、全職員がいつでも振り返りを出来るようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		6か月以内にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			地域交流の機会の提供はしていない。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	4		支援の中で子ども達に運動のメニューを決める時間を設けるなど工夫をしている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議があれば、子どもの様子を理解している者が参加している。また、会議内容の記録を残して他の職員への情報共有を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	関係機関との連携した支援へと繋がるような体制は整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1		送迎は行っていないが、連絡調整や情報共有などの体制は整えていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	2		必要に応じて対応を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			必要に応じて対応を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		放課後児童クラブや児童館、地域の他のお子様とともに活動する機会はない。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3		必要に応じて参加を検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		支援終了後に様子をお伝えしている。こちらからの一方的な活動内容をお伝えするだけでなく、家庭での様子もお聴き取りしたり課題に対する共通認識へと繋げている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	面談や相談支援などで行っている。日々のフィードバックの中でも情報提供をすることもある。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な場面で詳しく説明するようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		保護者との面談を行い、保護者や子どものニーズを確認し、共通理解しながら支援計画の作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		保護者に個別支援計画を提示した上で、説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		6か月以内に行う個別支援計画の面談の中で、保護者からお話を聞いた際に助言することもある。また、日々のフィードバック時に助言や支援を行うこともある。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	3		必要に応じて対応していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談があった場合には、日程調整をしてから迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		SNSやポスターを活用して活動内容の発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の扱いについては注意を払いながら取り扱っている。鍵付きの書庫に保管したり、名前の記載されているものはシュレッダーするなどしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		場面や状況に応じて言葉だけでなく、絵カードで視覚的にわかりやすいようにしたり、ジェスチャー等も活用しながら特性に合わせた対応を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		現在行っていないが、今後必要に応じ検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		左記マニュアル類はできており、保護者の目が届く位置（靴箱の上等）に置いて保護者へ周知している。また、定期的な訓練の実施も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、児童を交えて実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		契約面談時に確認し、全職員への共有も行っている。また、保護者に確認の上、対応について情報提供をして頂き、事業所としての対応を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定した訓練を実施している。実施する際は関係者児童を交えて行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		契約時に緊急連絡先を聞き、緊急時には連絡が繋がるように周知を徹底している。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。		

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に事業所内で虐待防止の研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束防止委員会を設け、身体拘束の定義や対応を職員間で確認している。保護者に説明し、個別支援計画においても記載している。	